

Save our home

水と空気と大地という、ごく単純なものに支えられて生きている私たち。
環境についてより広く知り、より深く考え行動することが、地球をいのちの星として存続させる方法です。

【環境資料集】

Words 用語解説

この冊子で使っていることばをご理解いただくために

Words

【当社の社会的責任】表紙裏

環境保全の国際的な高まりを受けて、企業には「自然との共生を図り」「積極的に情報を開示し」「第三者による監査を受け入れる」といった環境経営の思想に基づく事業活動が求められています。

イオンモールが環境マネジメントシステムに基づいて取り組む環境課題の継続的な改善もそのひとつ。責任であると同時に、将来にわたって不変の課題であると受け止めています。

【ISO14001】表紙裏

国際標準化機構 (International Organization for Standardization) が認証する、環境マネジメントシステムの国際規格。経営トップのリーダーシップによる継続的改善を基本とします。イオンモールは、2001年4月18日全社一括マルチサイト方式で認証取得いたしました。

【循環型社会】P2

資源やエネルギーの消費を抑え、リユース、リサイクルなどによって資源を有効的に活用し、ごみの発生そのものを少なくするなど、これまでの大量生産・大量消費社会から、環境への負担を低減し、自然と共生する社会の実現をめざすことをいいます。

【二酸化炭素 CO₂】P2

産業革命以降、人類が石炭や石油を大量に使うことで大気中の二酸化炭素が増え、地球温暖化が進んでいます。二酸化炭素は熱を蓄えて逃がさない温室効果を持ち、紫外線から生物を守るオゾン層を破壊するフロン、メタンなどを含めて温室効果ガスと呼ばれています。その増加を抑えることが今、国際社会の大きな課題となっています。

【ゼロ エミッション zero-emission】P2

emission=排出。廃棄物の排出をゼロにすることで、ごみを生み出すことのない生産や流通、廃棄物のリサイクル方法など、事業活動全体を貫く仕組みの構築と実践が課題となります。

イオンモールでは、ショッピングセンターから発生するごみの量を全量リサイクルし、焼却・埋立ごみをゼロにすることをめざしています。

【環境教育】P7・13

地球を水と緑の星として未来の子どもたちに残すためには、環境教育は企業内で行われることはもちろん、普遍的な知識と位置付け、学校教育、社会教育の一環として広く行われることが大切です。

イオンモールでも、社内外に向けた環境に関わるさまざまな情報の発信を続けていきます。

【再生コピー用紙で保全される成木の試算の根拠】P13

A4コピー用紙1枚に必要な古紙は5g。古紙1tで20本の成木を保全。

10,271,222枚×5g≒51t

51t×20本≒1,000本

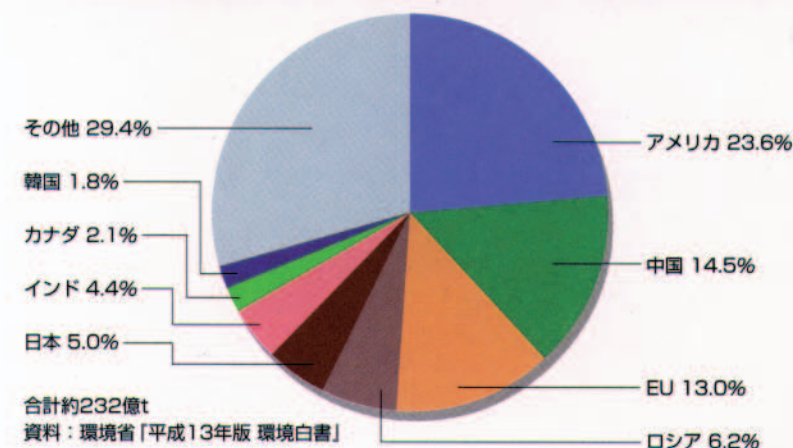
Eco random エコランダム

環境問題にちなんでいくつかのエピソードやデータをご紹介します

Eco random

各国の二酸化炭素排出量 (1997年)

日本はGDP当たりの排出量では世界の中でも低水準 (オーストラリアやアメリカ、台湾、イギリス、ドイツよりも下位) ですが、総排出量では世界4位 (EUを含まず) とトップレベルに位置し、地球温暖化防止の上で大きな責任を負っています。



平均気温上昇のほんとうのこわさ

たとえば地球の平均気温が4℃上昇するというとき、沖縄は2℃、本州は4℃、北海道では6℃、気温が上昇します。赤道から遠い地域ほど温度差が大きくなり、赤道直下の地域では2℃、南極、北極では12℃以上も気温が上昇することになるのです。

野生生物を絶滅させる人間の活動

1600年から現在までに絶滅した生き物693種について、絶滅の原因を調査した結果、移入生物 (39%)、生息地の破壊・改変 (36%)、狩猟 (23%) と、98%の原因は人間によって引き起こされたことがわかりました。2000年現在、世界中で5,435種もの生き物が絶滅危機種とされています。

ごみが秘める大きなパワー

ごみ1kg当たりの発熱量を1,800kcal/kgとすると (同量の石炭の場合は6,000kcal/kg)、国内で1年間に発生する一般廃棄物約5,120万tが持つエネルギーは、 38.5×10^{13} kJとなります。これは日本の13.4日分の原油供給量に匹敵します。

kJ=キロジュール

資料：環境省「平成13年版 循環型社会白書」

捨てるもの (ごみ) を生み出さなかった江戸期の知恵

江戸時代には、さまざまなものがたくみにリサイクルされて無駄を出さない社会が形成されていたことは、広く知られています。たとえば、わらは編み笠や草履の原料に。灰は食器を洗ったり紙の原料に。ろうそくのしずくさえ、再びろうそくに加工するために引き取られていました。

身近な自然の音色に耳をかたむけましょう

平成8年、環境庁 (現環境省) が「地域のシンボルとして大切に、残していきたいと願う音風景 (soundscape)」を公募し、『日本の音風景100選』を選定しました。北海道鶴居村のタンチョウサンクチュアリや、千葉県大多喜市の麻綿原のヒメハルゼミなど、豊かな自然が保存されてこそその音の風景が選ばれています。